

【引用文献】

- 内閣府編 高齢社会白書（平成 29 年度版）
- 中西三春（2019）.一般急性期病院における認知症ケア 日本全国の横断調査. 老年看護学. 23（2）, 44-48
- 湯浅美千代（2017）. 急性期病院における認知症高齢者に関わる看護の課題. 老年看護学. 22（1）, 10-13
- 日向園恵.（2018）. 急性期病院における身体拘束の現状についてどう考えるか. 看護. 70(2), 84-87
- 田中とも江.(1997). 抑制のない看護の実践. 老年看護学. 2(1), 31-35
- 厚生労働省身体拘束ゼロ作戦推進会議.（2001）. 身体拘束ゼロへの手引き [ウェブサイト]
<http://www.ipss.go.jp/publication/j/shiryoku/no.13/data/shiryoku/syakaifukushi/854.pdf>
（検索日：2021 年 1 月 28 日）
- 厚生労働省.(2006). 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準 [ウェブサイト]
https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=83aa8467&dataType=0&pageNo=1（検索日：2021 年 1 月 28 日）
- 厚生労働省(2016). 平成 28 年度診療報酬改定について、診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について [ウェブサイト]
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000106421.html>（検索日：2021 年 1 月 28 日）
- 長谷川沙希他.（2012）. ICU において抑制を受ける高齢患者に対する看護ケア. 老年看護学. 17(1), 28-36
- 全日本病院協会.（2016）. 身体拘束ゼロの実践に伴う課題に関する調査研究事業 [ウェブサイト]
https://www.ajha.or.jp/voice/pdf/other/160408_2.pdf（検索日：2021 年 1 月 28 日）
- 小藤幹恵.（2017）. 患者の心と深く響き合うことが、看護の専門性を高める—看護部全体で取り組む「抑制しない看護」に向けたチャレンジ. 看護管理. 27(1), 26-30
- 内閣府編. 高齢社会白書（平成 30 年度版）
- 中医協. 平成 27 年 11 月 25 日.入院医療（その 6） [ウェブサイト]
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000105049.pdf>（検索日：2021 年 1 月 28 日）
- 細野美穂子他.（2007）. 急性期病棟の看護師が抑制を判断するときの思い.看護実践の科学. 32(1), 75-80
- 小林美亜.（2019）. 認知症・高齢者看護の倫理的ジレンマとどう向き合う？—身体拘束に焦点をあてて. ナーシングビジネス. 13(11), 8-14

- 柏崎郁子他. (2017). 看護師による身体拘束に関する最高裁平成 22 年 1 月 26 日判決と一般病床の身体拘束ガイドラインに着目した文献検討. 老年看護学. 22(1), 98-106
- ポール・ハーシィ他. (2000). 山本成二, 山本あづさ (訳), 行動科学の展開〔新版〕. 生産性出版, 376-418
- 大西奈保子 (2009). ターミナルケアに携わる看護師の“肯定的な気づき”と態度変容過程. 日本看護科学会誌. 29(3), 34-42
- ジェイムス・プロチャスカ他. (2005). 中村正和 (監訳), チェンジング・フォー・グッド ステージ変容理論で上手に行動を変える. 法研, 22-56
- 梅垣弘子 (2018). 遷延性意識障害高齢者のプラスの反応を引き出すケアの構成要素と看護師の変容過程. 老年看護学. 23(1), 94-102
- P.ベナー, C.タナー, C.チェスラ. (2015). 早野 ZITO 真佐子 (訳), ベナー 看護実践における専門性 達人になるための思考と行動. 医学書院
- 日本看護系大学協議会. (2008). 看護学教育における倫理指針(改訂版) [ウェブサイト]. <https://www.janpu.or.jp/umin/kenkai/statment.html> (検索日: 2021 年 1 月 22 日)
- Shao-Huan Lan, Li-Chin Lu, Shou-Jen Lan, Jong-Chen Chen, Wen-Jun Wu, Shen-Peng Chang, Long-Yau Lin. (2017). Educational intervention on physical restraint use in long-term care facilities - Systematic review and meta-analysis. Kaohsiung Journal of Medical Sciences. 33(8), 411-421. doi: 10.1016/j.kjms.2017.05.012
- Jens Abraham, Ralph Möhler, Adrienne Henkel, Ramona Kupfer, Andrea Icks, Charalabos-Markos Dintsiou, . . . Sascha Köpke.(2019). Implementation of a multicomponent intervention to prevent physical restraints in nursing home residents (IMPRINT): study protocol for a cluster-randomised controlled trial. International Journal of Nursing Studies.96, 27-34. doi: 10.1016/j.ijnurstu.2019.03.017
- Takeshi Unoki, Miya Hamamoto, Hideaki Sakuramoto, Masako Shirasaka, Megumi Moriyasu, . . . Shigeki Fujitani. (2020). Influence of mutual support and a culture of blame among staff in acute care units on the frequency of physical restraint use in patients undergoing mechanical ventilation. Acute Medicine & Surgery. 7(1), 1-6
- 佐藤晶子. 病棟管理者としての身体拘束ゼロの実現 病棟風土の変革プロセスとスタッフ育成の実際. 看護管理. 30 (6) , 524-528
- 桐山啓一郎, 松下年子. (2019). 一般病棟における身体拘束の実態と看護の課題—東海地方を対象とした郵送式質問紙調査の結果より— . 総合病院精神医学. 31 (4) , 430-439
- 齋藤甚, 鈴木久義 (2019). 入院患者における身体拘束に関連する要因の検討. 日本老年医学会雑誌. 56 (3) , 283-289
- 田ヶ谷浩邦, 村山憲男, 松永祐輔 (2016). 睡眠障害のメカニズム. MB Medical Rehabilitation. 203, 7-12

- 谷口充孝. (2019). [向精神薬使用の適切な判断] 認知症に対する抗不安薬・睡眠薬使用の適切な判断. 月間薬事. 61 (3), 67 (471) -72 (476)
- 黒川美知代. (2018). 急性期病院における転倒予防対策チーム：医療安全管理者として一患者の行動支援を基本に多職種で検討する一. MB Medical Rehabilitation, 221, 8-13
- 小藤幹恵編.(2018).急性期病院で実現した身体拘束のない看護 金沢大学附属病院で続く挑戦.日本看護協会出版会
- 亀井智子. (2018). 学生・教員・病院看護部の協働による Hospital Elder Life Program in St. Luke's (HELP in SL)の取り組み：「人が足りないから拘束する」への問いかけ. 看護教育. 59 (6) , 46